



新任のご挨拶



高崎高等学校校長

堀 口 康 平

翠巒体育会は、創立以来順調な発展を重ねて来年は満二十周年を迎え、会報の発行も今回が十三号を数える由、誠にご同慶にたえません。ここに衷心よりご祝詞を申し上げ、今日に至るまでの会長さんをはじめ役員、関係の皆様方のご労苦に對しまして深甚なる敬意を表するところであります。

本会は、各運動部OB会相互の親睦を図るとともにより広い見地に立つて、母校の運動部活動の充実・振興を支援する趣旨で設立されたと聞いておりますが、このような部の枠をこえた支援組織は、県内はもちろん全国的にも稀でありまして、学校としても大変心強く、大きな誇りとしております。発足以来の母校に賜りました有形無形のご助力、なかならず

運動部振興のための物心両面にわたる並々ならぬご支援、ご尽力に對しまして、紙面をお借りして改めて厚くお礼を申し上げます。

皆様の暖かいご支援のお陰をもちまして、このところ母校の運動部は低迷から脱し、各部ともに活躍・健闘を続けております。特に本年度の県高校総体では、柔道個人部で中量級優勝（この結果、柔道では待望久しいインターハイへの出場が決定）を含めて、三位・四位などに入賞する競技が続出し、総合得点では昨年の十一位から一躍四位に躍進という好成績を残すことができました。この成績は、大学進学率と並んで県下の普通高校ではトップであり、来年度には一層の飛躍による往時の復活が期待されております。

す。こうした成果は、翠巒体育会をはじめ関係の方々のご支援の下、「運動も学業も県下一を目指す」という金井前校長先生時代からの積極的な指導方針に即して、顧問を中心とした教職員の労を惜しまない意欲的な指導が実を結んだものと確信しております。

ご案内のように普通科高校の生徒は、大学受験の重荷を背負っており、勉学と部活動との相克に悩む者が多く、本校の生徒もその例外ではありません。しかし、部活動が、学業とともに重要な教育活動であることは言をまたず、スポーツなどの部活動が人間形成に重要な役割を果たしていることは衆目の一致するところでもあります。特に今日のような豊かで便利な社会においては、同じ目的に向かって共に青春の血を燃やし、共に汗を流して限界に挑戦する中で培われる友情や思いやりの心、精も根も尽き果てるような烈しい練習を通して体得する「頑張りの哲学」など、人間としてのたくましさや心の豊かさなどを身につける上で、部活動への期待には大きなものがあります。近年、高等学校の部活動が一時の停滞期を脱して、進学校を中心に全国的に活性化しているのは言われのないことではありません。

本校におきましても「部活動の奨励」を教育指導の重点目標の一つとして、スポーツなどの部活動を通して体力や技能のみならず集中力・忍耐力・協調性の育成を目指した指導に努めるとともに、施設・設備の改修や整備等にも配慮しているところがあります。また、部活動等の

振興が学校を活気づけ、ひいては学力や進学率の向上を図る上からも肝要と考え、それらへの積極的参加を勧め、現在には六割近い生徒が運動部で活動しております。こうした積み重ねが今年度の高校総体上位入賞につながったものと考えております。

幸いに本校では、勉学と部活動の両立に向けてたくましい闘志や充実した気力をもって取り組む生徒も多く、大学進学においては、むしろ部活動経験者の方が好成績を残しており、それが生徒の自信や意欲にもつながっているものと考えます。ファイティング・スピリットの旗の下、幾多の先輩方が、意気も軒昂に、いかなる困難苦勞にも耐えて進む不屈の根性で勉学と部活動との両立を果たし、自らの素質や能力を見事に開花させた伝統と継承されていると言えるのではないのでしょうか。

運動部の二学期は新人戦の季節であります。母校の運動部は、先輩たちによって培われた伝統や精神を受け継ぎながら、その果たし得なかつた希望や夢の現に向けて、新たなメンバーで挑戦への第一歩を力強く踏み出したところであります。私共は皆様のご期待に応えるべく一層の指導の充実や施設等の整備に努める所存ではありますが、翠巒体育会の各位におかれましても、皆様が競技に精進された若き日々々に想いを重ね、変わらぬご指導、ご鞭撻、そして暖かいご支援を賜りますようお願いを申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。

創立百周年事業のスタート



高崎高校同窓会長

小山 禧 一

同窓会長として「翠巒体育」に寄稿せよと御指示を載き、平素考えておりますことを申し上げ同窓会員の皆様に御理解と御協力を賜りたいと思います。

まず第一に母校の一〇〇周年記念事業で御座居ますが、一口に一〇〇年と申しますが、大変な伝統と光栄ある歴史でもあり、日本を背負って立つ文化人、学者、政治家、実業家等数多くの人材を育成した、素晴らしい母校でありますのでそれにふさわしい行事を行いたいと理事会を始め役員の皆様と御相談致し、記念事業を中心に色々と検討し、同窓生のために又後輩にも役に立つものと考え、一学年四五〇名収容出来る集会所を持つ同窓会館(仮称)を建てることにきめ、その財源確保のため、同窓生の御協力を戴くことになりました。各委員会も発足し、全会員一致団結してスタートをしております。翠巒体育会の皆様にも是非御協力を

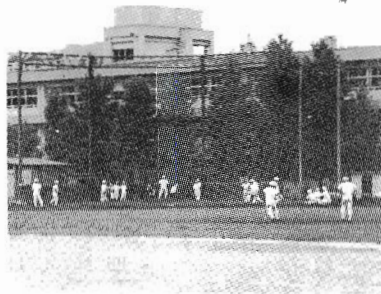
載けますようよろしく御願ひ申し上げます。

次に井上房一郎先輩の思い出についてであります。井上翁程、母校を愛し、母校のために御力添を賜った先輩はいないといつても過言ではないと思います。一切の地位も名譽も考えず、高崎市という一地方の文化、芸術を如何にしたら高められるかを、真面目に考へ、ブルノー・タウト先生を少林山に招聘し、群馬交響楽団の発展に儘力され、演奏会場がないと、あの当時では不可能と考えられた高崎音楽センターの建設に全力をあげて取り組み、遂に完成させ、当時の市長住谷啓三郎氏をして「時の高崎市民これを建つ」という有名な碑を記念に残されるよう努力したのも井上翁の御儘力の御陰でありその他、県立美術館の設立等数多くの文化・芸術の発展のためにつくされたことはあまりにも有名であります。

母校高崎高校のためにも大変御世話様になりました。校庭にそびえる銀杏並木も、昔並榎から今の乗附に移転して来た折、緑がないというので植えて載きましたし、校門を入った所にバラ園をつくり毎年自ら手入れをされて美しいバラの花を咲かせ、後輩の生徒の目を楽しませ、心にゆとりを持たせ、豊かな情緒を育成されました。又校舎建替えの折、中庭に石庭をつくり、ワビとサビの日本特有の世界を見事に作り出して載きました。

数えきれない御功績を残され翁は去る七月九十五才の天寿を完うされ御他界されました。我々後輩としてはもともと御元気でいらつしやうと願つておりましたのに誠に残念でありませんが、皆様と御一諸に生前の御儘力に心から感謝申し上げますと共に翁の御冥福を心より御祈り申し上げます。

我々母校高崎高校は「文武両道」といはれ地域の人達から尊敬されてまいりました。最近「武」の方が若干振いませ



ことは残念です。私も体育に多少関係あり、夏の国民大会には群馬県の団長として行きますが、競技の応援に行つて感じますことは、スポーツは一年や二年では実力がつかないことです。小学校、中学校の時からずつと長い間スポーツに一生懸命努力し、始めて成果が発揮される訳ですので、今のような受験地獄では学業第一となり、体育の方まで力が廻らないのが実態であろうと思えますので無理からぬことと存じます。それでも今迄に世界的に活躍されたスポーツマンも数多く先輩におられる訳ですので昔田中悦平先生の提唱された、3F精神、即ち、フェアプレー、ファイティングスピリッツ、フレンドシップ、で頑張つて載きたいと思う次第です。

五十六年に始めて野球部が甲子園に出場した折の感激が今でもあざやかに浮んで来ます。

野球部だけの快挙ではない、高々体育会全体の名譽だと翠巒体育会全員の皆さんが喜び、そして募金を集めて載き、甲子園の球場で大きな声で翠巒を合唱した感激は忘れられません。私にとつても一生に一度の素晴らしい思い出となると同時に「人生の生きざま」の中に強烈に焼きついた一コマとなっております。

「夢よもう一度」と思う人は私だけではないと思います。翠巒体育会の皆様も一度あの感激を味わせて下さい。最後に翠巒体育会の御発展を心より祈念申し上げます。御挨拶と致します。

わが師 内藤由己男先生



高崎市教育委員会教育長

網 中 正 昭

昭和二十七年、恩師のお世話で先生のお母校(旧制高崎中学校)高崎高等学校に赴任することになった。以来十六年間多感な青年期を過し貴重な人生経験を積むことができた。特に、内藤由己男先生の公私に亘るご指導により、今日があると云っても過言ではない程多大な影響を受けたことを現在もお深く感謝している。

先生は、東京高師、東京文理大を卒業後、高崎中学校教頭として赴任され、昭和二十年県立高崎中学校・高崎高等学校長に就任以来九年間に亘り、謹厳実直・率先垂範の気風を発揮され、本校教育のために尽瘁され、今日の高崎高校の盤石の基礎を築きあげられました。

先生は熊本県人吉の出身で気骨のある文質彬彬の士でありました。本校着任以来僅かな期間のお付き合ひではあったが、折に触れての心情溢れるご教導は今も脳裡に鮮明に焼きついている。

北にある県内きつての伝統校です。歌人若山牧水の出身校です。また、夏目漱石の小説『坊ちゃん』の登場人物『うらなり先生』が転任していく学校のモデルにもなりました。」と答えると、途端に相好をくずして、「まあ、坐つて話していきなさい。」と言いながら椅子をすすめてくれた。「君は『論語』を読んだことがあるかね。」と尋ねられた。要領を得ない私の返事を聞き終らないうちに、「教師として一読の価値がある。是非読んでおきなさい。」と言われると、すぐに書棚から単行本の『論語』を取り出して、「君が教師になれた『はなむけ』にこの本をあげるから読みなさい。論語の中で最も大事なものを一つだけ話しておきたい。」と前置きされて、次のようなことを話して下された。「論語の冒頭に『子曰く、学びて時にこれを習う、亦説ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦樂しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや。』と孔子は『学而編』の中で言っているが、初めて教師になった者の心掛けとして最高の教えである。特に

『時に』というのは、元來四季・四時であり、『春夏秋冬』、『朝昼夕夜』のことであり、『時々』という意味ではなく機会あるごとに『常に』ということをして強調しているんだよ。又、『人知らずして慍みず』とは、『努力が他人から認められないとしても不満をもたない』と孔子は厳しく戒めているんだ。これからは苦しいことばかり多いと思う。その時こそ正念場だ。期待しているよ。」と励ましてくれた。その時以来この言葉を大事にして過してきた。

それから一週間もたないある日の放課後校長室に呼ばれた。開口一番「君はまだ学生服で出勤しているようだが、背広はないのかね。」と声高に聞かれた。「はい、まだ買えません。」と答えると、私の顔をじいつと見つめながら、「よし、今夜私の家に来なさい。古いのをやるから。」と言われた。早速夕方昭和町のお宅に伺うと、奥様がここにこしながら既に用意されてあった包みを「主人のお古ですが、よかつたら着てみて下さい。少し小さいかもしれませんが。」と手渡して下された。その時の嬉しさは何ものにもたとえようがなかった。涙でお礼の言葉も言えずにおいとまをした。その時の拝領の二着の背広は大切に保存してあります。時々出しては私を叱咤激励して下さい。先生を思い浮べて、思わず「しばらくでした。私も毎日精一杯努力しています」と話しかけ、当時を懐しんでいます。

また、ある日の放課後校長室に呼ばれて、「君は放課後護国神社の境内で生徒と剣道の練習をしているそうだね。高校では未だ許可になっていないことは承知しているね。」と厳しく注意を受けた。私は翌日生徒達に剣道は許可になっていないので止めることにすると通告をした。生徒達も落胆して泣きだす者もいた。私も途方に暮れていると、富田マンキー先生が声をかけてくださった。「網中くん、剣道ではなく剣道の基礎練習なら許可基準に抵触しないよ。私から良く校長に説明しておくから、基礎・基本の体力づくりをやりなさい。」と誠に時宜を得た指道を受けて、早速生徒に連絡し、「富田マンキー先生からこのようにご指導を賜ったので、基本練習から始める。」と宣言し再開した。まさに「神の声」以外の何ものでもなかった。以来高崎高校剣道部は県内きつての伝統を誇っている。後になって先生にこのことを告白すると途端にあの特徴のある声で笑いながら、「よかつたね、富田先生は良いお爺ちゃんだからね。」と自分の事のように喜んでくれた。

ある日、「その後『論語』を少しは読んだかね。なかなか難解だから時間がかかると思うが、根気よく読んでみなさい。」と言われた。その時、「私のクラスに『内藤里仁』という生徒がいますが、先生のご子息さんだそうですね。」と申し上げると、微笑しながら「気がついたかね。あれは『里仁編』の『子曰く、仁に里るを美しと為す。擇んで仁に處らざらんば、焉んぞ知ることを得ん。』にあやかって命名したんだ。親馬鹿の期待に応えてくれると良いのだが。厳しい指導を頼むよ。」と笑いながら話を続けられ

た。この里仁編は、「人は人間らしさの中に根をおろしたように自然に住みつかねばならない。人間らしきを選んでそこに転宅しようとしないう人を知者とは言えない。」という意味だが、私はこの上州の地を選らぶのに孔子の教えをもってしたんだよ。だから上州は私の心の故里なんだ。ほんとうに好きだ。こんなに正直で朴訥な人はいないよ。」と嬉しそうに称賛のことば惜しまない先生の姿が印象的であった。

特別寄稿

自転車競技との出会い

福島 広己 (89回・バレー部)

更に言葉が続けて、「私の信条は、『子曰く、君子は周して比せず、小人は比して周せず。(為政編)』だ。つまり、『立派な人は心から仲のよい友になるが、徒党(利をもって集る集団)はくまない。つまらない人間は徒党をくむが、ほんとうの友にはならない。』という意味だが、今後、君の長い人生の中でこの教えが大事になる時がきつと来ると思う。その時こそ敢然としてその難局に当たり、この教えに従って局面打開に努力してくれ。」

と言いきかせるように諭された。これらの言葉は、内藤校長先生の人間性を如実に表わしている。先生の平素の身の振り方、自己に対する厳しい態度、周囲の人々に対する寛大さ、また旗幟鮮明な身の処し方は深く感銘を受け、先生を心から尊敬する所以でもあった。今は亡き先生のことを思い浮べながら感慨無量である。内藤由己男先生のご冥福をお祈りいたします。合掌

たのである。勉強ができないせいもあるが、ただ大学に進んで企業に入社するお決まりのコースよりも自分自身の努力で名声も大金もつかめる競輪という世界に魅了されてしまったのである。勿論両親、親類縁者にまでも大反対という大騒動を生む結果となる。特に父親には、「高々を出て、ギャンブルをやる奴がいるか!!」

と、完全に自分の選択を否定され、意見のくい違いから一カ月近く話をしなかった時期もあった。こんな事もあった。友人の父親の紹介で競輪選手を沢山知っているという人を訪れたとき、「競輪は厳しいし、ハングリーでないとダメ。高々、前高の生徒には無理だろう。」

一九九三年七月二日、青森県・八戸自転車競技場。

全日本選手権の最初の決勝種目、1km タイムトライアルも残り二名を残すのみとなった。僕はこの日、ギア倍数を52-15という今まで使った事のない重いモノを選んだ。

「小嶋に勝てなければ、何位でも同じだろう!」

というコーチの一言でゼロか優勝かという、一発勝負に賭ける決心が固まった。36名中16番出走。今まで頑張ってきたこ

とを全て出し切る事、それだけであった。記録1分07秒70 この時点で一位に躍り出た。強風の中、出したこのタイムは自己最高であったが自分自身の走りに満足はできなかった。というより、このタイムで残り10人のタイムアルによって何位まで落ちるか不安でたまらなかった。最後の2人は、日大の後輩・北野と、先輩である日本記録保持者の小嶋先輩。北野がゴール。08秒台。依然一位。小嶋先輩のタイムを刻む電光掲示が非常にゆっくりに思えた。

自転車競技という世界に飛び込んだのは大学に入ってからである。高々時代はバレーボールをやっていたが、インターハイ予選で高崎商業を破り念願のベスト四に進出したのを最後にバレー生活は完全燃焼した。自転車競技という大胆な発想は、高校の恩師・岩井寿史先生からのものである。先生とは陸上部の顧問であり面識がなく、陸上・十種競技のアジア大会金メダリストという遠い存在としか思っていなかった。高校時代は箕郷から高々まで約15kmを自転車に通っていた。帰りは部活を終えた後の登り道は辛かったので、バイク通学を申請するために先生を訪れたのが最初の会話だった。その時「その太い足で、自転車競技をやってみないか?」とかけられた一言が、僕の人生を大きく変えた。先生は真剣に、競輪について、又そういう奇抜な事をやれる奴が少ない事について話をしてくれたのである。今まで僕の中に存在していた大学進学というモノが、ほんの10分程の間に「競輪」というモノに完全に變化し

に決めた。実力も実績もない僕の当面の目標は、日大へ入学することになった。一応大学に進むことで両親も納得してくれ、以来、体力づくりと勉強との両立の毎日が続いた。体力づくりは、岩井先生にメニューを組んでいただき、一緒に頑張っていた。高三の春まで十二指腸潰瘍を患っており、その上貧血がひどく、一五〇〇m走では6分を切れなかったが、冬には4分50秒台までに進歩した。そして、日本大学文学部体育学科に合格した僕は、岩井先生の「推薦で合格した奴は、既に入部してガ

ンガン練習している。おくれるな!!」
と、いう勧めで、すぐ自転車部の門を叩いた。

初め、自転車部の所在がつかめず大学の学生課に行き、体育課へ回された。そこで最初に受けた言葉が、
「自転車部? 本当に入るの? 無理せずサークルにしなさい。きつと途中でドロップ・アウトだよ。」

であった。偶然自転車部の主将と総務とがその場におり、僕の話聞いてくれた。しかし、監督の承諾が必要で入部させられるか分からないと言われ、渋谷群馬へ帰った。三日後、総務から電話を受け、入部を許された。その時、
「絶対途中で辞めないか?」

と一〇回くらい聞かれた。入部して、日大・自転車部という存在に大きく驚かされる。インカレ七連勝(当時)、オリンピック選手・世界選メンバーが何人もおり、レベルの高さ・練習方法・自転車競技の複雑さ、何から何まで新鮮でインパクトが強かった。又、毎日が闘いであった。

同年のメンバーもインターハイ・国体の優勝者・入賞者ばかりで、練習についていくのが精一杯だった。合宿所生活の仕事も多く、何がなんだか分からないまま一年間が経ってしまった。思えば同年の中で皆とうまく溶け込めていなかっただのも事実で、彼らから白い目で見られていたかもしれない。これは、高々時代に養ったプライドが、こんな奴らに負けてたまるか? という形になって僕の体から滲み出ていたのだろう。辛いとき、きついとき、耐えられないこともあった。

しかし、逃げ出そうと思ったことは一度もなかった。それは、両親の反対を押し切つてまでに始めた事や、何人もの人に「駄目だろう」と言われた悔しさに負けたくないという気持ちもあるが、一番僕を奮い立たせてくれたのは、僕を応援してくれる人の存在であり、その人たちの期待に応えたい、と思う気持ちであった。初めは本当の理解者は岩井先生一人だったろう。しかし、一人でも頑張れた。

あの先生がいるから頑張れる」と、いう気持ちがあふれて来るのだ。先生には科学的トレーニング方法から食事療法、試合前の調整方法からコンセンストレーションの持つて行き方など今まで知らなかった数々の大切な事を教えて頂いた。お陰で二年時には相当力もつき、国体で初出場・五位入賞まで行く事が出来た。

二年から三年にかけては、日大の竹花監督の恩恵で一カ月間のオーストラリア遠征にも行かせて頂き自転車というものをようやく理解出来るようになる。その頃には同年の中でもかなり溶け込めるようになり、何から何まで向上して行った。三年時にはインカレでも日大代表として抜擢され四位入賞。更に幹部交替で四〇名を越える「インカレ一連覇」を誇る日本一の自転車部の主将に抜擢。様々な辛い事が一方でそれが一番活躍出来る舞台へ上げてもらうことになったのだ。

そして今、かつて手も届かなかった程遠い存在であった全日本チャンピオンに挑戦しようとしている。
その小嶋先輩が四コーナーを回り残り一〇〇m。四秒、五秒、六秒…六秒六九

〇。負けた。しかし僕は、ガッツポーズをしていた。全日本選手権初出場二位入賞。満足のいく成績であった。同僚が迎えてくれた。嬉しかった。金メダルより彼らが褒めたたえてくれる事が何よりも嬉しかった。僕は、今まで応援し続けてくれた人達に応えようと同時に、アジア選手権のキップを手にする事が出来た。(念願の全日本のジャージを着て走れるのだ。)

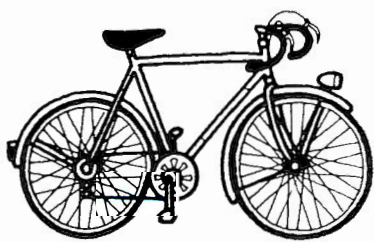
自転車をやると決心してから今日まであつという間であった。その間ただ僕は、周りの人を信じて、その人たちの言う事をやり通しただけである。その間、何度も挫折しそうになったが、僕を見守ってくれている人、応援してくれている人がいると思うと、不思議と頑張ることが出来た。又、大反対であった両親も応援してくれている今、僕は出来ることはその人達の期待に応える事だけであった。そして、大学四年間、タイムは伸び続けたのと同時に、一人の人間としても確実に大きくなったと思う。

卒業後は福島県の高校で教員として働く事が決まった。僕の競技力を買って頂き、「是非福島に来てくれ」と、何度も頭を下げられた。当初、競輪しか頭になかった僕は、大学四年間でもっと素晴らしい事があるという事に気づいた。それは人間を育てるという事、自分の考えを人に伝えられる事。教師という聖職に就こうと考えたのは、そういう理由からである。又、何も出来なかつた自分をここまで導いてくれた人達の姿にあこがれていたのかもしれない。残念ながら、群馬ではそういう声をかけてもらえなかつた

が、素晴らしい条件で迎えてくれる福島県に骨をうずめるつもりで頑張るつもりだ。

最後に、高々の現役諸君に言いたい。自分の周りを見渡す余裕を持って欲しい。誰か必ず一人は、君を見守ってくれているはずだ、それが両親であったり、先生であったり、恋人であったりするかもしれない。その人は君の可能性にかけてくれている。受験できつくなったり、部活で弱音を吐きたくなったり、その人の事を思い出して欲しい。人間は必ずやれる。君たちは限らない可能性を内に秘めている。小さい事にこだわらず、大きく夢を持って、可能性にぶつかって欲しい。僕も頑張る、君たちも一生懸命頑張る。張って欲しい。

このような貴重な機会に僕のような者のS.O.S.を残せる事を誇りに思い、又心より感謝致します。
一九九三年九月 合宿所にて



OB会の活動(1) 平成五年度現況報告

軟式庭球部

丸山 博 (68回)

このところ毎年お盆ごろに、OB会総会とテニスの集いを、高々コートにおいて開催してきましたが、今年度は事情があつてできませんでした。そこで、今回はOBの中で現在テニス界で活躍している方を紹介します。

八月末に高崎上並複コートにおいて団体関東ブロック大会があり、私も審判の一員として参加しましたが、二〇期の堀越澄夫氏が東京都代表で参加しておられました。私がちょうど審判をしたのですが、見事なスマッシュを決め、観客をうならせていました。

三一期の峰哲彦氏は県ソフトテニス連盟の事務局長として、また中央高校の監督として活躍中です。三四期の塚越章司会長は毎朝問屋町コートで硬式テニスを楽しんでます。三九期の大沢宏海氏は浦和市在住ですが、テニス三昧の生活だそうです。同期の下山万吉雄氏も問屋町コートの常連です。四八期の木村芳之氏は吉井町で中学生の指導に熱中しています。同期の田中逸朗氏は甘楽町代表で県民大会で活躍。五四期の浦野克彦氏は少年男子国体チーム監督として東四国国体へ参加。同期の原田佳幸氏は箕郷中学校

でテニス部を指導し、一昨年全国三位、昨年は同五位と実績を残しています。五五期丸山昌弘氏、五六期牛込英昭氏、五六期島田好伸氏、同期中村孝雄氏、五七期須賀博之氏等は、中学校教諭としてテニス部監督として指導に頑張つています。五八期の武井将夫氏は県選手権大会一、二位の常連で今最も期待されている選手です。

陸 上 部

坂本 正樹 (71回)

陸上競技部の顧問に、アジア大会十種競技の金メダリストの岩井先生をお迎えして数年たち、現役選手の競技力がこのところ急速に向上し、昨年は国体選手や混成競技の全国大会の入賞者も誕生しました。OB会としても、岩井先生のご尽力に感謝するとともに、現役諸君のより一層の活躍を期待していますが、具体的な活動としては、有志により、夏期合宿時や北関東大会出場時に激励会などを行っています。

OB会の総会は平成四年三月二〇日に行つて以来行つておらず、今後OB会総会の定期化や、現役選手とのさらなる交流の場を検討していきたいと考えています。

バスケット部

橋爪 良真 (75回)

特筆すべきことは、今春OB各位にご寄付を仰ぎまして、現役に中古の遠征用大型バスを寄贈できたことです。現役監督立見先生の二年越しの悲願がようやく成就されました。栄光奪取への大いなる励みとなることでしょう。セルリアンブルーのその雄姿(バスのこと)をお見かけになりましたら、ぜひご声援をお願いします。

また、本年五月末の総会では、永年ご尽力いただきました反町会長(50期)が退かれ、小澤新会長(57期)以下役員が

若返りました。反町前会長は本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。この席上新たに会則が承認され、組織の明瞭化も計られました。

恒例の行事としては、毎年元旦に現役との交流試合、六月九日前後に、ゴルフや懇親会、総会を含めた六九(ローキユー)会などを催しております。

*OB会の新役員は以下の通りです

- 会 長 小澤 武男(57期)
- 副会長 須田 修巨(66期)
- 林 進一(72期)
- 橋爪 良真(75期)
- 支部長(東京) 石橋 孝(72期)
- 幹事長 斉藤 真一(74期)

バレーボール部

高橋 浩生 (78回)

バレー部OB会の年間の活動は、毎年一月二日対現役生戦及び新年会、六月下旬総会、秋頃親睦会となっております。平成五年も新年会、総会と無事に開催され、さらなる親睦を深めると共に、バレー部OB会の特徴ともいえるべき、会員一人一人の自己紹介並びに近況報告が和やかなるうちになされました。

我がOB会は、昭和53年のバレー部全国大会出場をピークとしたOB会活動を再度活気付けることにより、なんとか現役生のレベルアップを図ろうと、掛川秀雄(48回)会長を中心に現在頑張っております。幸いにも現役の指導者として田



口哲男(75回)先生、木暮弘(82回)先生を高々にむかえる事が出来、全国大会出場も夢ではない、というところまで来ています。

バレー部には、OB会活動の一環として、翠巒クラブという社会人のクラブチームがあります。翠巒クラブは、群馬県及び現役バレーボール部の発展に貢献するという少々大袈裟な目的で九年前に結成され、現役生と汗を流すと共に、本年末まで八年連続群馬県の代表として、クラブカップ全国大会に出場し続けております。(最高ベスト16)

最後となりましたが、掛川秀雄会長が、平成四年度高崎市体育功労賞をバレーボールの部で受賞したことをここに御報告致します。

ラグビー部

上羽 正弘 (72回)

高崎高校ラグビー部OB会は、設楽嘉男会長二期目を迎え本年一月一七日、護国神社において新年総会を開催。昨年度OB会活動及び決算報告ならびに本年度事業予定が、発表されますべて承認された。また、ラグビー部創部五〇周年記念事業を、平成七年秋に行うことが確認された。

本年度OB会活動の近況であるが、六月にOB会報第三号の発行ならびに昨年度に続きOB会費の徴収を行った。OB会費については、約五〇%徴収と他部に比べ少ないと思われるがOB会の財政ににおいて役に立っている。

また、長年本校ならびに群馬県のラグビー界発展に貢献された、岡田由重先生が勲五等瑞宝章を授章され、OB会ならびに群馬惑惑倶楽部の共催により七月二四日高崎ターミナルホテルにおいて多数の出席をえて盛大に叙勲祝賀会を開催した。

最後に、現役チームの近況であるが、春の県総体は高崎商業にまさかの一回戦負けを喫したが、冬の全国大会出場に向けて、恒例の菅平合宿では血の汗を流しており、捲土重来が期待される。

剣道部

藤木 正行 (69回)

平成四年度卒業生で、延べ二八二名のO・Bを送りだした高々剣友会は、昨年創立四〇周年を迎えました。

当部では五年毎に(懐かしい)卒業写真入りの会員名簿を発刊しこれを関係者全員に頒布し大変好評を博しておりますし、同時にこれがまた大切な収入源となっており、おかげさまで口座の残高は大変潤っておりますが、近年関東大会及びインターハイ出場から遠ざかり、援助対象の少ないのが悩みの種であります。

ただし、この大会成績の不振と言うのは一方的に高々剣道部が弱体化したという事ではなく、他校のレベルアップが著しくそのスピードに追い付けないというのが実態であると思われます。幸いなことに、本年より部活動経験者

の推薦入学制度により有望な新入生の獲得が出来ましたし、他方O・Bの活躍も目覚ましく毎年六、七段への昇段者が増えておりトップダウンとボトムアップが同時に図れる状況になって参りました。又、O・Bの交流の場といたしまして毎年一月三日に現役生徒を交えての稽古会の後、新年総会を行ない約七〇名出席があります。こちらも盛会ではありませんが前述のように四〇年の歴史を誇るとは裏腹に年代のギャップが目立ちはじめっており、本年は事務局の刷新を図り今後の飛躍を期待するものであります。

サッカー部

清野 哲雄 (74回)

「祝 群馬リーグ一部昇格」

サッカー部OB会・翠巒クラブは、発足二〇年目にして念願の一部昇格を果たしました。初代監督・顧問の先生方及び諸先輩方の熱意に感謝申し上げます。

本年も一月二日に高々グラウンドで、初蹴会を行い、一月九日に総会・新年会・一部昇格祝賀会を九〇名の参加で行いました。総会では佐藤義夫会長(58回)が勇退されて、阿久沢茂氏(69回)が第二代会長に就任しました。新体制は四〇代三名、三〇代七名、二〇代一名の若い十一名スタッフとなり、OB会と現役の盛隆を目指すことになりました。三月には顧問の田中彰先生(50回)が退職され神田直俊先生(75回)が顧問に

就任されましたが、サッカー部父兄会と共にその御尽力に感謝し祝福しました。また八月・五日には昨年より始まりました高高・前高サッカー部OB会の第二回交流試合が、前高主催にて前高グラウンドで行なわれ、好天のなか現役の試合も含め高高四勝一分の強さを示しました。最後に、空前のサッカーチームが続いています。四百余名のOB会員の皆様には、OB会発展のため、また現役の全国大会出場四回目を期して、御多用とは存じますが、御協力をお願いします。土曜日の午後、現役とOBが合同練習していただきますので、ぜひ御参加をお願いします。

応援部

永井 功 (65回)

平成四年度、応援部の創立者であり、OB会の創立者でもある下田茂夫先輩(50期)の退職(高校教諭)を期に、長い間のご労苦に感謝を込め慰労懇親会を開催いたしました。

平成五年度総会並びに新年会は、本年一月応援部創立当時、早大応援部員として、下田先輩ほか現役応援部員のご指導を通じ、応援の基礎を伝授して下さいました。福田正一先輩(46期)をお迎えし、当時のお話をうかがい楽しい懇親会となりました。

今後、機会有るごとに会員あい集いOB会の発展を期し前進する所存です。

OB会の活動(2) 平成五年度現況報告

野 球 部

本多 饒 (57回)



金森甲子夫さんをしのんで

元野球部監督、金森甲子夫さんが昨年十二月ご家族の看病の甲斐もなく不帰の客となられた。

金森さんは高野野球部に対し、アドバイスやコーチングは以前からなさっておりましたが監督をなさったのは三年間でした。

その三年間を一年から三年まで教えて



いただいた私はラッキーでした。たったの三年間で低迷していた高野野球部を第三期黄金時代とまで言わせるチームに仕上げてくださいました。

我々はお陰様で大きな大会にも何度も出場しましたし、招聘試合も申し込みが殺到し、各地の強剛チームとも対戦させていただきました。

神宮大会に出場した時のことでした。春のボタ雪に日程が延びて旅館宿泊の我々は無邪気に喜んだものですが、金森さんは神宮球場と会社を往復していたことを鮮明に覚えております。

お仕事と家庭を犠牲にしてまで高野野球部のために情熱を注ぎご尽力下さった金森さんは派手さはないが堅実な常性で考えるチームをつくってくれました。

就任二年目には早くも関東最強とまで新聞に書かれる程のチームに仕上げ高橋さん(元日石)、木村さん(元阪急)のバッテリーをはじめ、名シヨート立見さんを守りの要とし、東都大学・ノンプロで大活躍した中村さんを主力としたパワフルな攻撃力もある素晴らしいチームでした。春季関東大会は県内のチームが目標とした故稲川東一郎監督率いる桐高をも一蹴し、群馬を制し、関東大会に出場しましたが当時無敵を誇った徳武、醍醐、王を擁した早実に敗退した。

夏の大会は優勝候補一番手に目されながら唯一のプレーで不運にも甲子園への

道は閉ざされてしまいました。

そして私達五十七期の時代に入りましたが強いチームの後の故でしょうか野球部長のガーちゃん(市川先生)に最初はボールもバットも握らせてもらえず、頭と足を使えと炎天下でただただランニングだけをさせられました。

夏休み中に学校に内緒で高商と高工と練習試合をし、0-1、1-2で敗れ、これがガーちゃんにばれて叱責されたことがありました。

この時、金森さんは叱ることもせず、安中蚕糸と試合を組んでくれたのです。

強いチームのグラウンドへ相手チームが来るというのが不文律のなか、敢えて遠征させた監督さんでした。

結果は23対1で勝ったのですが、この時も蚕糸に1点とられたとガーちゃんに叱られました。

二年生の秋、前高との定期戦で元巨人の八時半の男、宮田投手を打ち破ってから自信をつけ、以後練習試合では無敗で秋の県大会は優勝し、関東大会も決勝戦まで進出、延長の末甲府工に敗れ、準優勝にとどまったのです。

当時、選抜甲子園大会の出場枠は東京と関東から二校だったため、甲府工が関東代表として出場したため念願の甲子園への夢は断たれました。

そして翌年夏の大会では準決勝で桐高に勝ち、稲川監督をして「金森さん、あなたに完敗です」と言わしめたのです。「東ちゃんが俺に完敗ですと言って頭を下げた」これが金森さんの自慢でした。

この夏の大会は勿論群馬県大会を制し

北関東大会でも決勝戦まで進出したが、勝利の女神は味方せず、土浦一高に敗れ、またしても悲願の甲子園への夢は消え去りました。

この試合は安藤(後に阪神監督)にしてやられたようなものでした。現在の甲子園出場枠の制度でしたら、春・夏連続甲子園へ出場できたことになりました。

金森さんはお仕事が終ると自転車に乗って毎日グラウンドに来られ、猛ノックで我々を鍛えてくれました。練習には厳しい監督さんでしたが、試合では選手を叱ることはありませんでした。

三振してもエラーをしてもベンチに帰ってくる選手を叱ることもせず、ヨシヨシと笑顔で迎えて下さった優しい監督さんでした。

昨年六月、甲子園の完全試合前高の松本投手と本校の唯一の甲子園出場投手川端投手の投げ合いで前高との野球部OB戦がくりひろげられました。そのOB戦後の金森さんと当時コーチとして指導して下さった四十六期の湯浅忠治さん、小沢正道さんを囲んで感謝する夕べの酒宴の席で「もう一度ノックをしたいな」とおっしゃっておいりましたのに、それも叶わぬ夢となってしまつて無念でなりません。

金森さんの高校野球に対するお志、高野野球部に対する情熱は金森さんのお人柄と共に我々一人一人が受け継ぎ、次への世代へ引き継がれていくことを誓いし、尊敬してやまない大好きな監督さんにご冥福をお祈り申し上げます。

平成2年度 高々運動部活動状況

平成2年度

◎軟式庭球

県総体―団体ベスト8

関東大会―個人(梅田・砂賀組3回戦)

個人(高田・砂賀組3回戦)

インターハイ県予選―団体2回戦

インターハイ出場(梅田・砂賀組1回戦)

◎陸上競技

県総体―一六〇〇米リレー―第六位

走り高跳び(石橋一M九〇―第四位)

三段跳び(石橋一四米四四―第二位)

ハンマー投げ(金井四二米四〇―六位)

関東大会―三段跳び(石橋修―第七位)

◎野球

春季大会―二回戦、夏季大会―二回戦

秋季大会―準々決勝 桐8対1高々

◎ラグビー

県総体―一回戦、一年生大会―二回戦

全国大会県予選 決勝農233―7高々

◎サッカー

県総体―一回戦、インターハイ予選―一回戦、県高校予選西毛地区―継続中

◎バスケット

県総体―準々決勝

第五回栃木群馬交流試合―優勝(群馬4

栃木4チーム)、インターハイ予選(準

々決勝)、強化大会(Aブロック準々)

◎バレー

県総体―ベスト16

インターハイ予選―ベスト16

秋季大会―ベスト16

◎剣道

県総体―団体準々決勝

インターハイ予選―団体ベスト8

個人戦(ベスト32位)

学校対抗団体(1回戦)個人(3回戦)

◎柔道

県総体―2回戦、インターハイ予選―2

回戦、個人戦(軽量―藤巻・天田5位)

軽中量・中量級ベスト16

学年別大会(一年天田―軽量3位、

その他ベスト16)

◎弓道

県総体―団体ベスト16

個人―矢嶋伊知朗―優勝

インターハイ―ベスト6位

西毛地区―団体優勝、個人 福島優勝

◎テニス(硬式)

県総体―ダブルス(嶋田・森平) 3位

◎空手

県総体―個人組手(御園ベスト8)

インターハイ予選―個人組手(南雲―8)

◎山岳

県総体―11位(参加校21校)

その他―集中登山大会第一部参加

◎卓球

県総体―団体(1回戦)個人(3回戦)

インターハイ予選―(1回戦)

学年別大会―個人2年・1年とも3回戦

◎軟式野球

県総体―2回戦

インターハイ予選―2回戦

新人戦―前工(1対0)高々

◎スキー・スケート

県総体(平成3年1/8―12開催)

インターハイ予選(平成3年1/28―30)

新人戦(平成3年3/25―27開催)

◎水泳

県総体―百米バタ3位、二百米個人メド

レー―四百米リレー4位、四百米メドレ

ー6位

関東大会出場(高橋・中曾根・中島・石

曾根・小淵)

新人戦―二百米バタ(稲葉2位、山本4

位)百米バタ(菊地2位)百米自由(菊

地5位)四百米個人メドレー(稲葉3位)

平成3年度

高々運動部活動状況

①平成3年度県総合体育大会

②関東大会県予選会

③全国大会県予選会

④新人大会

(注)①②は兼ねる種目あり

◎軟式庭球

①団体5位 準々決勝(高崎0―2

農二)、関東大会出場:個人(篠

澤・江原)

③団体3位(高崎0―2前商)インタ

ーハイ出場(富士宮市)(篠澤・江

原3回戦)(高田・佐藤2回戦)

④団体3位(高崎1―2農二)、個人

2位(篠澤・佐藤)5位(高田・須

藤)、一年生大会個人2位(内田・

広瀬)

◎水泳

①総合5位、個人2位百米バタフライ

(小安)、3位四百米個人メドレー

(小安)、3位千五百米自由形(生

方)、5位八百米リレー(中曾根・

小安・菊地・生方)、6位百米バタ

フライ(中曾根)、6位二百米個人

メドレー(中曾根)、6位四百米メ

ドレーリレー(菊地・坂本・小安・

生方)、7位百米平泳ぎ(神)

②1位百米、二百米バタフライ(小安、

3位四百米メドレーリレー(中曾根

・坂本・小安・菊地)、4位百米バ

タフライ、二百米個人メドレー(中

曾根)、5位四百米リレー(小安・

生方・菊地・中曾根)、6位二百米

平泳ぎ(坂本)

③1位千五百米自由形(生方)、2位

二百米・四百米自由形、四百米メド

レーリレー、3位五十米自由形、百

米平泳ぎ、百米・二百米バタフライ

四百米個人メドレー、八百米リレー

4位百米平泳ぎ、千五百米自由形、

5位四百米自由形、6位五十米・二

百米・四百米自由形、5位百・二百

米平泳ぎ(入賞十八種目)

◎陸上

①5位四百米リレー(神保・森脇・塩

原・佐々木)、関東大会出場(宇都

宮):四百米リレー

◎柔道

①5位、関東大会出場(水戸市)予選

リーグ:高崎0―2水戸短付、

高崎2―3桐蔭学園

②3回戦ベスト8、個人―86kg級3位

(永岡)、学年別大会:一年―86kg

級1位(永岡)、+96kg級5位(斉

藤)、71kg級5位(綱島)

県強化選手選考会:2位(永岡)

3位(佐藤)

◎山 岳

- ① 8位 (山本・行田・持田・須永)
- 関東大会出場 (群馬県白砂山系)
- ④ 4位 一年 (新井)

山田昇記念登山大会…三枝賞

(持田)

◎バスケットボール

- ① 5位、準々決勝 高崎50―55前工
- ③ 3位、準決勝 高崎57―83桐生

◎バレーボール

- ① ベスト16
- ③ ベスト16位 秋季大会…11月17日、24日

◎野 球

- ① 春季大会…3回戦 高崎3―4高工、全国大会県予選会…1回戦
- 高崎2―8伊勢崎東
- ② 秋季大会…準々決勝 高崎6―7高工 (ベスト8)

◎軟式野球

- ① 3位 準決勝 高崎2―3高工
- ③ 2回戦 高崎4―5前工

◎ラグビー

- ① 3回戦 高崎9―23伊東
- ③ 高崎9―20前商

◎サッカー

- ① 8位、4回戦 高崎0―6前商
- ③ 2回戦 高崎0―0館商工

県高校サッカー選手権 県大会

1回戦 高崎0―3西邑菜

◎テニス

- ① 個人W8位 (本間・米沼組)
- ③ 同8位

④ 準々決勝 高崎2―3太田

◎卓 球

◎弓 道

- ① 団体8位

◎剣 道

- ① 3回戦 高崎1―4前商
- ③ 2回戦 高崎2―3渋谷
- ④ 3回戦 高崎0―4農大二、秋季大会…1回戦 高崎1―3桐生

◎空手道

- ① 団体組手2回戦 高崎0―4中央
- 個人組手5回戦 (宮川)、4回戦 (金田)

平成4年度
高々運動部活動状況

- ① 平成4年度県総合体育大会
 - ② 関東大会県予選会
 - ③ 関東大会
 - ④ 全国高校総体県予選会
 - ⑤ 全国高校総合体育大会
 - ⑥ 国民体育大会
 - ⑦ 県高校新人大大会
 - ⑧ その他の大会
- (注) ①②は兼ねる種目あり

◎硬式野球

⑧ 春季大会…

- 1回戦 高崎7―0渋谷川西
- 2回戦 高崎7―1藤岡工
- 3回戦 高崎6―5太田東
- 準々決勝 高崎1―2樹徳

夏季大会… 1回戦 高崎9―2榛名

- 2回戦 高崎5―1富岡実業
- 3回戦 高崎5―6前商

秋季大会…

- 1回戦 高崎4―2嬉恋
- 2回戦 高崎3―1常磐
- 3回戦 高崎6―0利根実業

準々決勝 高崎3―6関東学園

◎ラグビー

- ① 1回戦 高崎44―0高工
- 2回戦 高崎0―50農二

④ 1回戦 高崎18―8前商

2回戦 高崎42―0伊勢崎東

準々決勝 高崎23―3前橋

準決勝 高崎23―14高商

決勝 高崎0―55農二

◎サッカー

- ① 2回戦 高崎3―0渋谷川工
- 3回戦 高崎1―0樹徳
- 4回戦 高崎1―2西邑菜

④ 2回戦 高崎4―0桐生西

3回戦 高崎4―1利根商

4回戦 高崎2―1伊勢崎商

準々決勝 高崎0―2育英

⑧ 全国高校サッカー 選手権県予選会…二次トーナメント

1回戦 (高崎1―2伊勢崎商)

① 200m 今成 晃 22秒54 6位

② 200m 今成 晃 22秒37 5位

③ 200m 今成 晃 22秒37 (決勝8位)

④ 8種競技 中山俊也 5440点 (決勝11位)

- ⑤ 8種競技 中山俊也 5359点 (1位)
- ⑥ 4×100mリレー 今成 晃 40秒88 4位

⑦ 走幅跳 羽鳥修平 6m43 5位

100m 今成 晃 10秒96 3位

棒高跳 馬場利幸 3m60 4位

◎水 泳

② (個人入賞) 200m 小安貴弘 優勝

千五百m自由形 生方 直 5位

百m平泳 青木千昌 5位

(リレー種目) 400mメドレーリレー 800mリレー 400mリレー 5位

① (個人入賞) 百mバタフライ 小安貴弘 優勝

200m 生方 直 4位

千五百m自由形 生方 直 4位

百m平泳 青木千昌 4位

(リレー種目) 400mメドレーリレー 800mリレー 5位

⑥ 400mメドレーリレーのバタフライ (得点換算学校対抗総合5位)

⑦ 千五百m自由形 生方 直 優勝

400m自由形 生方 直 2位

200m自由形 坂本 泰 優勝

百m平泳 神 裕介 5位

- ◎山岳
 - ①団体7位
 - ③出場(初冠雪の日光太郎山)
 - ⑥新井裕己(2年)
 - ⑦1年男子の部 八木茂雄 5位
 - ⑦2年男子の部 新井裕己 2位

- ◎バレー
 - ①2回戦 高崎2-0前橋工
 - 3回戦 高崎2-0太田
 - 4回戦 高崎2-0泉央
 - 準々決勝 高崎1-2桐生一
 - ④4回戦 高崎2-0桐生工
 - 準々決勝 高崎0-2高崎北

- ⑧西毛地区大会
 - 1回戦 高崎2-0藤岡工
 - 2回戦 高崎2-0高崎工
 - 3回戦 高崎2-0高崎商
 - 決勝 高崎2-0高崎北

- ◎テニス
 - ①(団体戦)
 - 2回戦 高崎5-0館林商工
 - 3回戦 高崎3-0利根実業
 - 準々決勝 高崎1-3渋川
 - ダブルス:矢島(3年)板橋(1年) ベスト8

- ④個人戦(ダブルス)
 - 岸・川原(3年)組 準優勝
 - 矢島(3年)・板橋(1年)

- ⑦団体戦
 - 1回戦 高崎5-0太田商
 - 3回戦 高崎3-1伊勢崎東
 - 準々決勝 高崎2-3太田東
 - 個人戦(ダブルス)
 - 今井・板橋組 3位

- ◎バスケットボール
 - ①1回戦 高崎84-39前商
 - 2回戦 高崎72-41西邑楽
 - 3回戦 高崎60-54前工
 - 準々決勝 高崎53-80桐生
 - ④3回戦 高崎71-49中之原
 - 準々決勝 高崎51-79樹徳
 - ⑧全国選抜大会県予選 (インターハイ予選会 上位8チーム参加)

- ◎卓球
 - 1回戦 高崎71-69太田
 - 準決勝 高崎56-96樹徳
 - ①1回戦 高崎0-3藤岡
 - ④1回戦 高崎1-3藤岡

- ◎柔道
 - ①団体5位
 - 1回戦 高崎4-0富岡
 - 2回戦 高崎5-0沼田
 - 3回戦 高崎2-0渋川
 - 4回戦 高崎3-1農二
 - 5回戦 高崎0-1常盤
 - 個人Aブロック 長井大悟(3年) ベスト8

- ③団体
 - 1回戦 高崎3-1八潮(埼玉)
 - 2回戦 高崎1-2菓鴨高(東京)
- ④団体 ベスト8

- 1回戦 高崎5-0伊勢崎東
- 2回戦 高崎2-1富岡
- 3回戦 高崎0-3育英
- 個人
 - 軽量級 天田 淳(3) ベスト8
 - 軽中量級 佐藤 伸(3) ベスト8
 - 中量級 綱島 毅(3) ベスト8
- ⑧県強化選手選考会
 - 個人
 - 60kg 大久保浩二(2) ベスト8
 - 71kg 片柳 孝洋(1) ベスト8
 - 86kg 永岡 祐一(2) 優勝
 - 95kg 佐藤 幸弘(2) 3位
 - 永岡、佐藤、強化選手指定

- ◎空手道
 - ⑧1、2年生大会
 - 個人組手 松井辰夫 ベスト8
 - 強化選手指定

- ◎軟式野球
 - ①2回戦 高崎0-1桐生工
 - ④2回戦 高崎0-2高崎商
 - ⑧2回戦 高崎8-1中央
 - 3回戦 高崎3-2前橋商
 - 準決勝 高崎10-3太田
 - 決勝 高崎3-2前橋工
 - 新人関東大会 3位

- ◎軟式庭球
 - ①2回戦 高崎3-0館林商工
 - 3回戦 高崎2-1高崎商
 - 準々決勝 高崎2-0桐生工
 - 準決勝 高崎1-2横浜商工

- 準決勝 高崎1-2農二

- ◎弓道
 - ①団体戦予選敗退
 - ④団体戦予選敗退
 - 個人 朝井範夫(2年) 4位
- ③1回戦 高崎2-1菓鴨高(東京)
- 2回戦 高崎0-2向上(神奈川)
- ④1回戦 高崎2-1渋川西
- 2回戦 高崎2-0桐生商
- 準々決勝 高崎2-0前橋
- 準決勝 高崎0-2農二
- ⑦2回戦 高崎2-0桐生
- 3回戦 高崎2-0太田工
- 準々決勝 高崎2-0高崎商
- 準決勝 高崎1-2中央

- ◎剣道部
 - ①2回戦敗退
 - ④2回戦敗退

翠巒体育会 会計報告					
収入の部			支出の部		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
繰越金	202,590		総会費	326,225	平成4年9月25日
年会費	300,000	25,000×12部	会報12号	309,914	
総会費	207,000	5,000×37名	事務局事務費	100,000	平成4年度
助成金	300,000	2,000×11名	理事・役員費	129,516	
雑収入	45,422		会費	15,450	
合計	1,055,012			881,105	

平成5年3月31日迄

差引残高 173,907円

会計 佐藤 義夫 監査 丸山 功一
 〆 安中 隆一 〆 廣田 誠四郎

翠 巒 体 育 会 役 員 名 簿 (平成 5 . 10 . 14)

	氏 名	回	住 所	電 話	学校側顧問
会 長	岩田 武雄	53			学 校 長・堀口 康平 教 頭・根岸 信吉 運 動 部 長・岩井 寿史
副 会 長 (事 業)	山口 正敏	58			
〃 (事 業)	秋池 宗一郎	65			
〃 (事 業)	川手 義昭	62			
〃 (庶 務)	横田 茂	55			
〃 (庶 務)	塚越 章司	58			
〃 (庶 務)	木村 洋	59			
〃 (書 記)	小沢 武男	57			
〃 (書 記)	庭田 登志男	68			
〃 (会 計)	佐藤 義夫	58			
〃 (会 計)	安中 隆一	65			
会 計 監 査	丸山 功一	60			
〃	廣田 誠四郎	64			
願 問	国峯 善次郎	50			
〃	清水 貞保	30			
〃	岡田 由重				
理 事					
陸 上	横尾 信男	65			岩井寿史・市川敏美・女屋 浩 小笠原祐治・井本嘉宣・関口穂積 今井俊治・関根正史・大山勝男 立見賢治・水上光久・町田 仁 木暮 弘・田口哲男・安達 淳 高橋正四郎・桜井 清 波戸場研二・長岡秀一 坂田和文・大谷法明・関口 理 町田 仁・坂田和文・吉田武彦 寺町良次・加藤 聡・上野臣吾 栗原大介・田嶋 亘・富沢栄世 樽見尚人・小林俊之・植原政明 増田 泰・箕輪 明 植原政明・立見賢治・井田淳一 篠原正泰・塚越 究・荒木 隆 戸塚英之 塚越 究・中谷賢一・小泉誠司 吉田武彦・戸塚英之 高橋 寛・佐藤 熙・金井 明 井上健郎・斉藤勇夫・大山勝男 女屋 浩・荒木 隆・飯塚 光 飯野良二・斉藤勇夫
卓 球	坂本 正樹	71			
軟 式 庭 球	深沢 昇	57			
バ ス ケ ッ ト	根岸 博昭	68			
パ レ ー	丸山 博	68			
ラ グ ビ ー	信沢 紀夫	68			
サ ッ カ ー	反町 定夫	50			
水 泳	友松 敬三	61			
柔 道	林 章	67			
剣 道	高橋 浩生	78			
野 球	岩丸 高明	82			
応 援	掛川 稔	82			
山 岳	増田 一臣	60			
硬式テニス	上羽 正弘	72			
スキー・スケート	赤羽 英光	73			
弓 道	清野 哲雄	74			
空 手 道	原 勝弘	78			
軟 式 野 球	新谷 恭一	54			
マラソン同好会	小此木 勝	56			
編 集 部	石井 清一	57			
事 務 局	関口 茂樹	63			
事 務 局 長	藤木 正行	69			
	浅名 誠	70			
	小山潤一郎	69			
	清水 正郎	75			
	小林 均	77			
	塚越 真功	64			
	永井 功	65			
	秋山 賢治	74			
	大崎 哲朗	77			
	小林 俊之	76			
	櫻井 清弘	81			
	木暮 弘	82			

編 集 後 記

翠巒体育会が発足して19年、機関誌の創刊より18年目を迎えました。その間、諸先輩を始め多方面に亘る皆様方より原稿を載せ発行してまいりました。今後も編集部一同頑張りますのでより以上のご協力をお願い申し上げます。

母校の百周年も四年後に迫り、学校・同窓会を中心に記念事業を計画し準備を進めております。現役の諸君に全国大会出場を果してもらい、錦上添花を添えられたいと願っています。

体育会員の皆様にも現役各部への尚一層の後押しをお願い致します。

(佐藤義夫)

翠 巒 体 育 第 十 三 号

平成五年十月十四日発行

翠巒体育会事務局

〒三三〇

高崎市八千代町二一四一

群馬県立高崎高等学校内

電話

〇二七三二二四〇〇七四

印刷 (南オーサキ)